

ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。湧水湿地の、その中でも特に湿潤な場所に生育する小型の食虫植物で、愛知県では近年減少傾向が著しい。

【形態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて2～3mmのものから3cmを越すものまでである。花期は8～9月、花茎は直立し、高さ5～15cm、上部に1～4花をつけ、花には長さ2～8mmの花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に2～3mm、膜質、花後4～5mmに伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ3～6mm、距は長さ2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 56868)、作手(芹沢 56514)、豊橋北部(芹沢 56298)、田原赤羽根(芹沢 53623)、渥美(芹沢 56328)、藤岡(塚本威彦 353)、豊田東部(芹沢 57097)、豊田北西部(村松正雄 765)、三好(芹沢 63920)、額田(小林 53439)、岡崎南部(芹沢 57433)、瀬戸尾張旭(芹沢 76138)、豊明東郷(伊藤昭康 555)、半田武豊(渡邊麻子 661)、常滑(芹沢 56609)、犬山(芹沢 53745)、春日井(芹沢 54009)、名古屋北部(芹沢 56209)、名古屋南東部(芹沢 56189)。

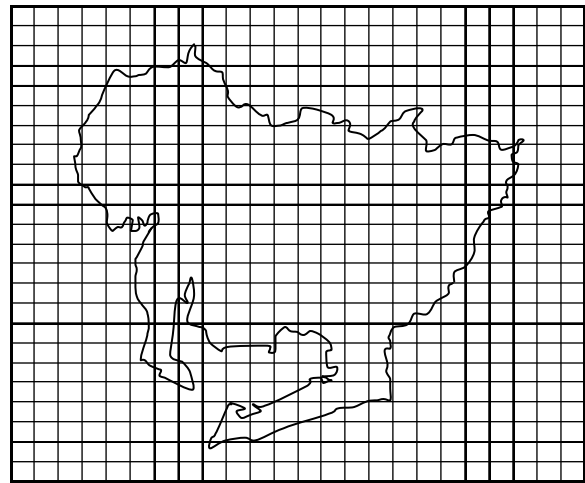
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境/生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

ミミカキグサやホザキノミミカキグサに比べればもともとかなり少なく、しかも近年の夏の高温乾燥傾向によってこれら2種以上に大きな影響を受けている。レッドデータブックあいち2001植物編ではリスト外と評価した上で「今後もこの傾向が続けば準絶滅危惧種に移行する可能性がある」と述べたが、危惧は現実になった。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。

【関連文献】

保草本 p.121、平草本 p.138、環境庁 p.532。